

国連気候変動サミットのこと

ニューヨークの国連本部で、各国の首脳や企業トップらが新たな地球温暖化の具体的な対策を表明する「気候変動サミット」が開かれました。ドイツのメルケル首相は「2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする」という突っ込んだ目標を掲げましたが、日本の大臣からは具体的な目標は発表されませんでした。

この会議でスウェーデンに住む16歳の環境活動家「グレタ・トゥンベリ」さんは、遅々として進まない世界の温暖化対策を「夢を奪った」という言葉で、痛烈に批判しました。



確かに近年、高温や、大規模台風など、異常気象が頻発しています。

子どもや孫の世代のためにできることは何か。今一度、一人ひとりが考えて行動することが大切です。

「Eco列車でいこう！」～第123回～ 山古志 牛の角突き!

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです!)



9月22日(日)。どんよりとした、あいにくの空模様だが、雨は降らないらしい。

長岡市山古志地区で行われる国指定重要無形民俗文化財「牛の角突き」を観に行くことにした。

今回は時間が無かったのでクルマで向かったが、開催日には、長岡駅からのシャトルバスもあるとのことだ。

12時すぎに、「山古志闘牛場」に到着した。2000円の入場料を払って中に入ると、思っていたよりも立派な円形の闘牛場である。ブナ林のそばにあり、風が気持ちがいい。

屋台では、焼きそばやおにぎり、ビールやアイスなどのほか、「牛串焼き」も売っていた。もちろん負けた牛が「串焼き」になるということはない。山古志の角突きはすべて「引き分け」になり、それが大きな魅力だという。

「引き分け」にするのは、家族の一員として大切に飼育している牛に、肉体的・精神的なダメージを与えないようにとのことだった。その言葉には、この地区の人たちの牛に対する敬意が感じられた。

13時。取り組みの開始だ。観客は300~400人くらいだろうか。まずは三歳と二歳の対決。人間でいうなら、中学生と小学生くらいであり、戦いに慣れさせるためという。このような解説を、マイクを付けた牛使い(勢子)の方が話してくれるから、とても分かりやすい。

角を付き合っ、どちらかが一方的に攻めて、相手が傷つきそうになると引き分けになる。そして観客席から拍手が巻き起こり、牛は場内を一周して会場を後にする。

この日の取り組みは全部で十二番。後半戦は1トンを超える成牛のぶつかり合いで、大迫力である。興奮した牛に、縄をかけて戦いを辞めさせる勢子は、時に牛の圧力に負けて転倒する。まさに命がけだ。

あっという間の2時間。すべての取り組みが終了した。

周囲から閉ざされた山間の村にこのような文化があり、震災を乗り越えて復活した「牛の角突き」は素晴らしく感動した。ぜひ一度ご覧になると良いと思う。

今年の開催はあと3回。10月13日(日)、23日(水)、11月3日(日)とのこと。そして、山里に冬が訪れる。

